令和６年４月　教育委員提案

教員研修の高度化について

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

教員研修の高度化に資するモデル開発事業について

事業の目的

教育公務員特例法及び免許法の改正により、新たな研修制度が開始
→**新たな研修制度の必要性。多様な主体の協働による研修モデルを開発し、その成果を広く普及するとで、全国的な研修観の転換・定着を図る。**

戸田市では

「テーマ（2）：教員研修や授業研究等の高度化に関すること」を受託

「戸田市SEEPプロジェクト」を支える教員研修のアップデート

全体として

各教科等 ⇄ 教科等横断 PBL

PBL等が進むからこそ教科の必要性も

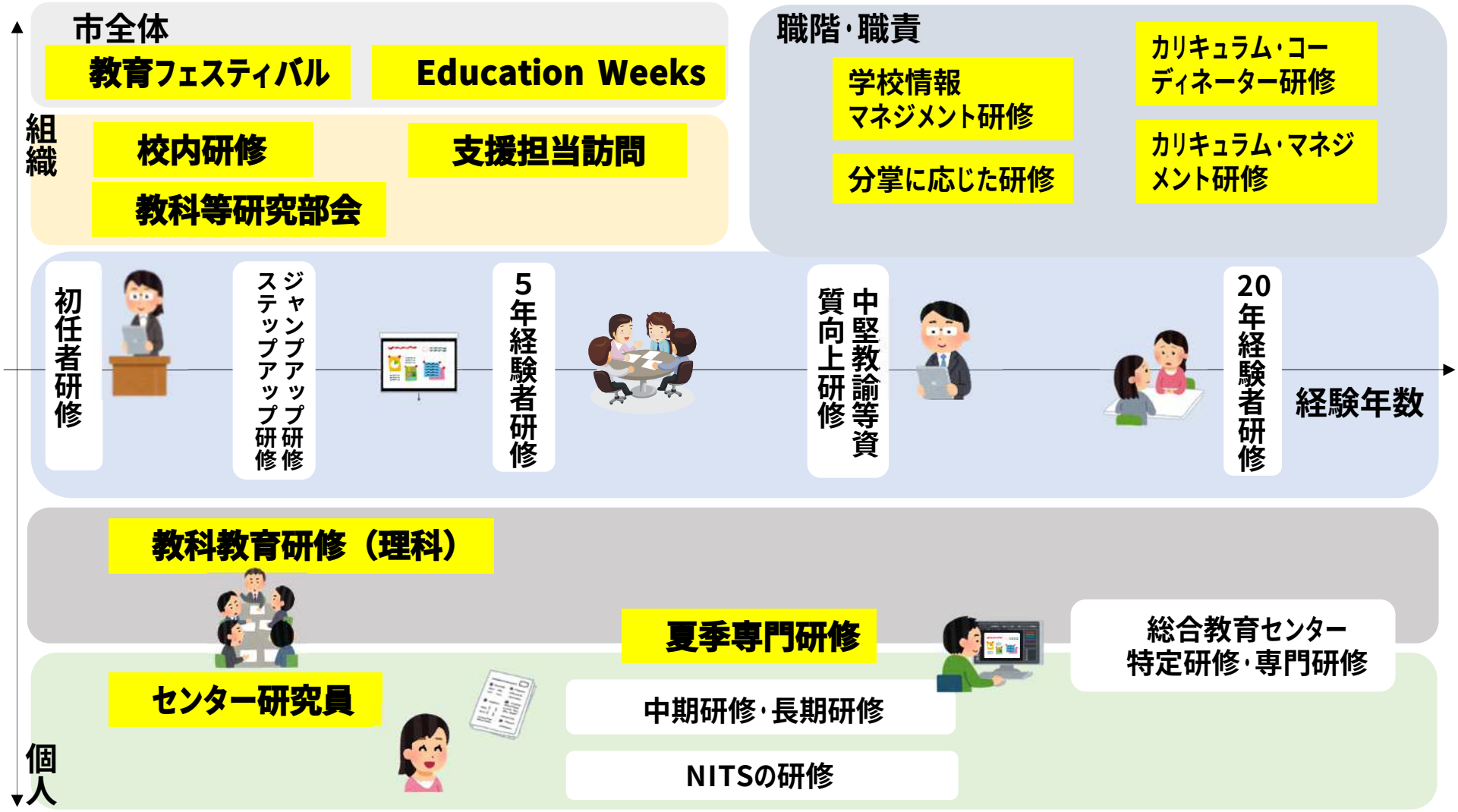
校内研修





キーワード　**子供の学びと教師の学びは「相似形」**

戸田市の研修



- ○ 他自治体に比べて、充実した研修メニューを設定
- ○ 産官学と連携した「社会に開かれた学校づくり」の一環として、研修においても外部の力を活用
- ▲ その多くは職階・職責に応じたものであり、教師のニーズへのサポートは不十分
- ▲ 校内研修において、「学校のやりたい！」に向けた金銭的・物的サポートは不十分

戸田市の研修

組織

市全体

教育フェスティバル

Education Weeks

モデル校での高度化を支援

校内研修

支援担当訪問

主に協働的な研修

職階・職責

学校情報マネジメント研修

分掌に応じた研修

カリキュラム・コーディネーター研修

カリキュラム・マネジメント研修

初任者研修



ジャンプアップ研修
ステップアップ研修



5年経験者



大学等から一流の講師を呼んでの授業研究や準備支援（他教科に拡大）

中堅教諭等資質向上研修





20年経験者研修

経験年数

教科教育研修（理科）

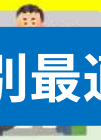
主に個別最適な研修

教科指導の魅力や教科の見方・考え方に浸る（選択必修参加）

夏季専門研修



総合教育センター
特定研修・専門研修



センター研究員



中期研修・長期研修

NITSの研修

先進地視察・セミナー参加や大学等と連携した研修等を支援

個人

Mission

教師一人ひとりのキャリアステージやニーズに合った「学びの場」が提供され、学び続けることが出来る

Vision

教師の「個別最適な学び」と「協働的な学び」が実現

教科教育深化プラン

・PBLが各校において推進されている今こそ、**SEEPプロジェクトの原点である「Subject（教科教育）」を深化**させ、それらを車の両輪として子供達の学びを充実していく必要。
・そのために、**教師間の同僚性**を高めつつ、共通的な基盤である**授業づくりの視点**と、教科の学びに夢中になるような、各教科固有の**「見方・考え方」を働かせる視点**の双方を強化していく。

★文科省「教員研修高度化モデル事業」を活用

３本の矢からなる「教科教育深化プラン」

①共通的な基盤である授業づくりの視点の浸透



●「アクティブラーニング指導用ルーブリック」の更なる改善

●RST（リーディング・スキル・テスト）の視点と、ユニバーサルデザインやICTの視点も組み合わせた、子供達のつまづきに対応した授業改善を全校で実施



●「学級経営ルーブリック」（仮称）の策定検討

②教師間の学び合いの場の拡充



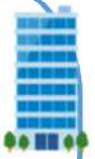
●各中学校区で小中の教師がお互いに授業を見合う機会を促進

★夏季専門研修で、教科の魅力を学ぶ機会を設定（選択必修参加）

★教科等研究部会での大学等から講師を呼んでの授業研究を支援

★センター研究員制度について、参加者の拡大と運営の活性化

③教育委員会によるサポート体制の充実



●各教科の、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を授業と紐付けて提示





★モデル校４校における、大学・民間と連携した校内研修・授業研究等の高度化への支援



★大学と連携した算数・数学、体育の研修の充実

●学校経営アドバイザーによる訪問の充実



子供達の学びと教師達の学びは「相似形」
教師にも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を！

コンセプト　民間や大学と連携した「脱・予定調和」「脱・自前主義」

（１）教師のニーズに応じた個別最適な研修
- 教科教育深化プラン推進に向けた教科の「見方・考え方」に浸る研修
- 学校の校内研修テーマに応じた特色ある研修
- 先進地視察

（２）教師同士の対話、外部との連携による協働的な研修
- 民間や大学と連携した研修
- 協働を推進する研修環境の整備

主に個別最適な研修　市主催研修等の高度化

教科教育（大学連携）

一流の講師を招聘し、授業前～授業後までの授業研究を支援



体育・保健体育
国士舘大学 細越教授



算数・数学
埼玉大学 二宮教授

教育センター研究員





センター研究員による先進地視察やセミナー参加等の支援のほか、各部会に一流の講師を招聘

教師が各教科等の見方・考え方に浸る研修

主に協働的な研修　校内研修の高度化

モデル校による「脱・自前主義」の校内研修



【美谷本小】大学と連携した学級経営力の向上や（一社）アルバ・エデュと連携した話す力の研修



【喜沢小】（株）LITALICOによる継続的な授業観察及びRTIミーティングの伴走支援による研修



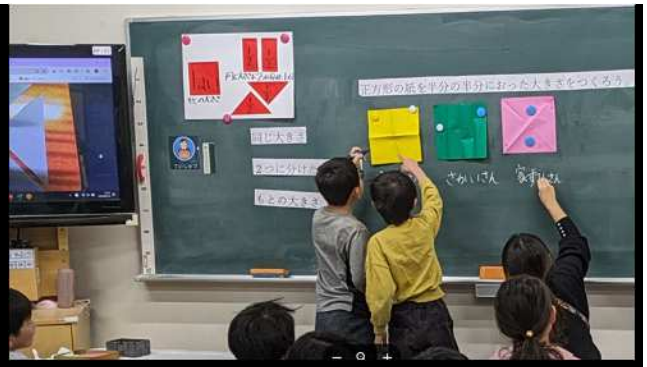
【戸田中】福井大学やキャリアリンク（株）と連携した教科教育及びPBLの充実に向けた研修



【笹目中】フランクリン･コヴィー･エデュケーション･ジャパン（株）と連携した教師向けのリーダーシップ研修

さらに、協働性を高める研修環境の整備も実施









市主催研修の高度化

市主催研修の高度化①

夏季教職員研修（教科等指導法研修の新設）

ねらい　教師が抱える教科等の悩みを解決する「見方・考え方」に触れる研修を通して、教材研究に生かす視点をもつことができるようにする。

内　容　市内全教職員（年次研修参加者を除く）が夏季休業期間中にいずれかの教科等の研修に悉皆で参加する。参加者の選択が行いやすいよう、各教科等２回ずつ、オンラインで実施する（道徳、中英語以外）。

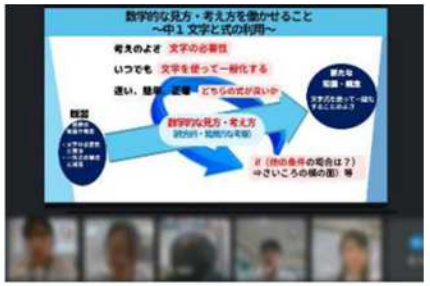
国語



社会



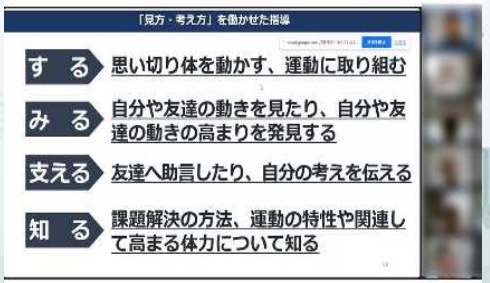
算数・数学



理科



体育・保健体育



英語（中学校）



道徳



特別活動

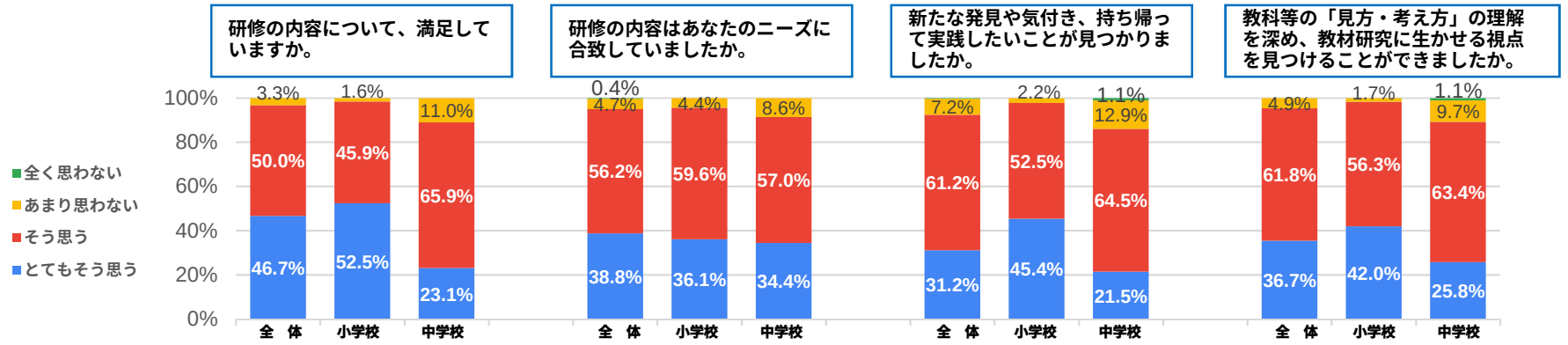


市主催研修の高度化①

夏季教職員研修（教科等指導法研修の新設）

成　果

事後アンケート（回答数276）では、記述回答で教科等の見方・考え方を踏まえた主体的・対話的で深い学びについて具体的なイメージをもつことができたという感想が多くあった。その他、研修に対して満足感や実践意欲、ニーズのほか教科の「見方・考え方」について90%以上の教師が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。



課　題

参加者同士の**情報交換や、具体的な事例をもっと知りたかった**という感想が散見された。オンライン開催かつ時間も短く（85分）、参加者数も多かったことが原因として考えられる。また、全体的に小学校と比べて、**中学校の回答結果が振るわなかった**。中学校では自身の教科がない場合、道徳や特活を選択しており、それも原因の一つになっている。

→研修時間を一層確保（夏季以外も検討）していくことを検討する必要がある。
ただし、夏季休業期間中も学校では個人面談や三者面談等を実施していたり、法定研修・年次研修等も並行して実施されていたりするため、専門研修と含めて、負担に配慮しながら**実施する研修の精選**も同時に行う必要がある。

→今年度**実施のない教科**（生活、音楽、図画工作・美術、技術・家庭、総合）の実施や**学校種別**の研修（または研修内容を学校種の違い踏まえた研修）を検討する必要がある。

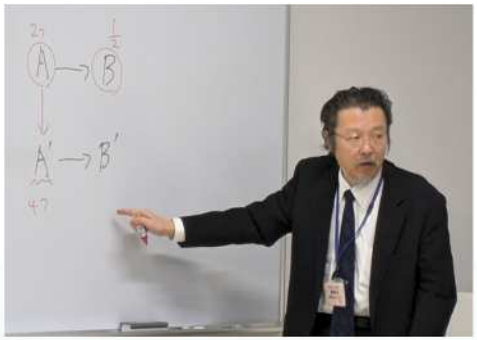
市主催研修の高度化②

教科教育研修（算数・数学、体育・保健体育）

ねらい　教師が各教科等の「見方・考え方」に存分に浸り、教師も子供も教科の学びに夢中になって「見方・考え方」を働かせることのできる授業づくりを行えるようにする。

内　容　教科の専門家である一流の講師を招聘し、**事前➡授業➡事後 までの授業研究を伴走支援**いただく

算数・数学　埼玉大学　二宮裕之 教授







体育・保健体育　国士舘大学 細越淳二 教授







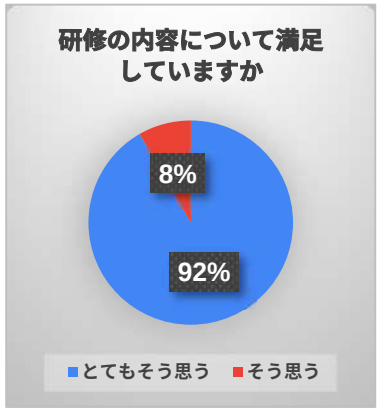
市主催研修の高度化②

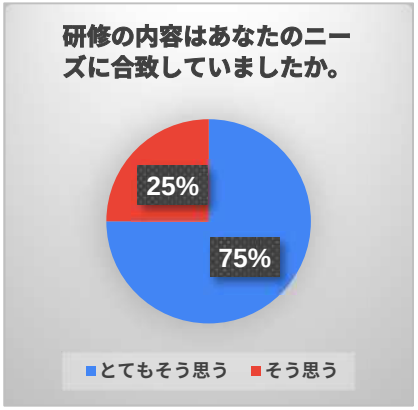
教科教育研修（算数・数学、体育・保健体育）

R6年度も継続！
（教科は調整中）

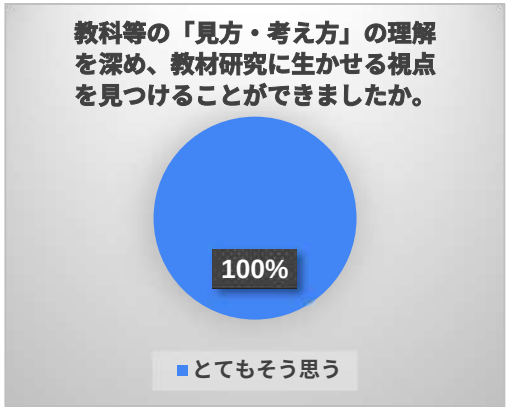
成　果

事後アンケート（回答数13）では、受講者全員が、研修に対して満足感や実践意欲をもつことができ、教科の「見方・考え方」については全員が「とてもそう思う」と回答した。









参加者の声

▶自分の指導する**単元の内容を深く掘り下げて**いただき、なぜその単元を学ぶ必要があるのか、この単元が今後どのように**ほかの単元につながって**いくかを学ぶことができました。方法知について学ぶ機会を設けていただくことは多いが、**突き詰めて内容知**を教えていただける機会はあまりなかったので、とても勉強になりました。

▶事前の検討段階からご指導いただき、**指導の仕方のバリエーション**が広がった。何より、授業後に的確なフィードバックをいただき、不明確だった部分が理解できた。特に、研究協議では、**基本的な運動特性**や児童の課題に対しての**具体的な支援の方法**などご指導いただくとともに、**実技を通して検討**できたことはとても有意義だった。

▶今まで一斉授業としての算数を学んできた中、子供主体の学び、令和の新しい形の学習方法について考える際に色々な不安がありました。今回の研修で二宮先生から教科の本質についてご指導いただけたことで、**自信をもって進めていくことができる部分と、改善すべき点、今後目指していくべき授業の姿をイメージ**することができました

課　題

教師の経験年次によっては、「難易度が高い」と感じた教師の回答もあった。年次の下減を設けることも検討する。また、今年度は**中学校からの参加希望が０**であったため、実施方法を工夫し、学校種問わず参加しやすくなるようにする。

市主催研修の高度化③

センター研究員（先進地視察及び外部講師の招聘）

ねらい　センター研究員の各部会における「やりたい」を実現する支援を行うことで、各研究員のニーズに応じた学びが行えるようにする。

内　容　部会に全国で活躍する有識者を招聘したり、先進地の視察したりする際の金銭的支援を行う。

有識者の招聘



先進地視察



視察先の例

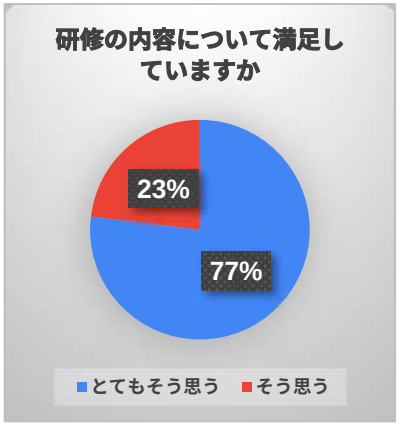
- 東京学芸大学附属世田谷小学校（算数・数学）
- 大阪教育大学附属池田小学校（算数・数学）
- 上越教育大学附属小学校（生活・総合）
- 延岡市立東小学校（社会）　など

市主催研修の高度化③

センター研究員（先進地視察及び外部講師の招聘）

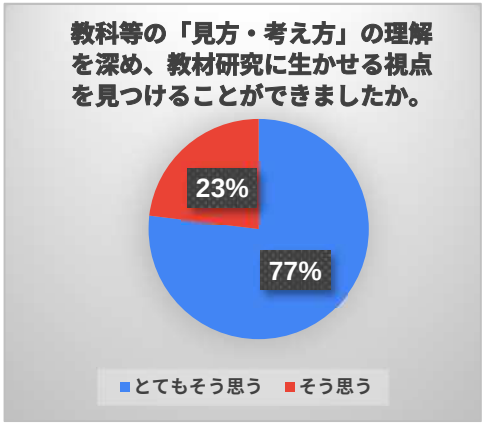
成　果

事後アンケート（回答数21）では、受講者全員が、研修に対して満足感や実践意欲をもつことができた。







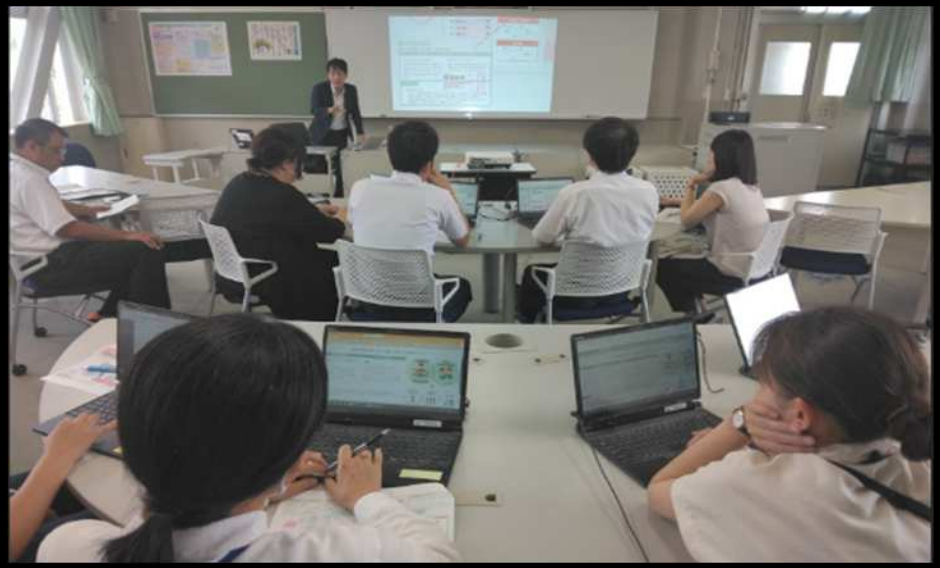


参加者の声

- ▶ 初めて「世田谷算数夏季セミナー」に参加しました。ポイントになるところや自分だったらどう進めたか等々，いろいろと考えた上で協議に参加できました。**算数に対する新しい見方や考え方に触れる良い機会**になりました。
- ▶ オンラインによって状況は変わってきたものの、これまで**県内が限界であったところ、県外に出て**、その地域に合った学びや研究開発の事例などを学ぶことができたのは大きな刺激となった。それをそのまま導入することはできないかもしれないが、**本校の実態に即してアレンジをしたい！**と強く感じた。
- ▶ 他校のSNSでその学校の校内研修の指導をされていた先生にセンター研でご指導いただける機会をえられたことは貴重な学びとなりました（一度ご指導いただきたいと思っていたので）。**センター研という小さなコミュニティだからこそ、校内研修では聞きづらい小さな悩みから新しい情報まで、近い距離でお話をきくことができた**のが大変勉強になりました。

課　題

センター研究員という枠であるからこそ、教師のニーズに応じた学びができたものの、視察研修は学校の理解も必要である。また、外部講師の招聘は、マイスターを中心に研究員の主体性が求められる。









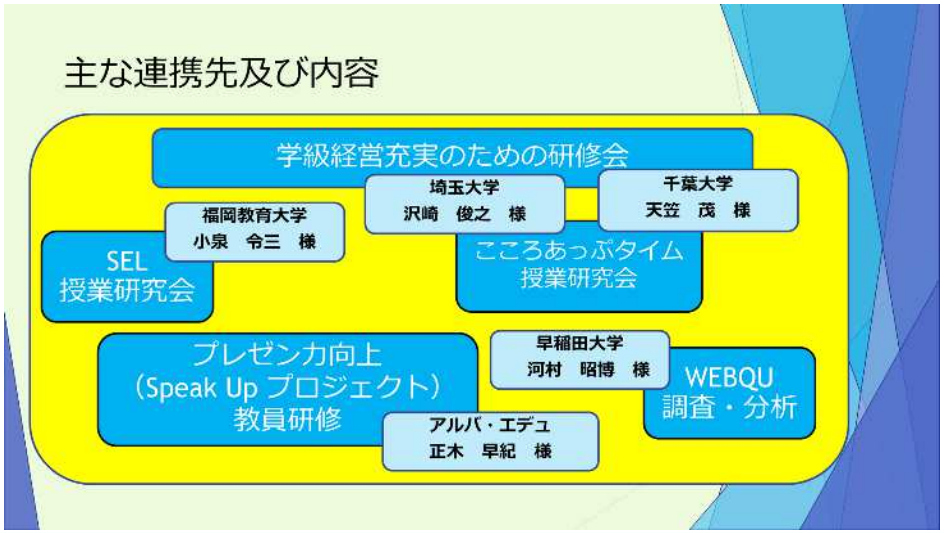
モデル校における校内研修の高度化

モデル校における校内研修の高度化

美谷本小学校

多様な産官学との連携による協働的な研修

研究主題　**豊かに学び合い、未来を拓く児童の育成　～心を育てる学級経営 SEEPプロジェクト～**



学級生活満足度の変化

1回目

4群	満足	非承認	侵害知	不満足	要支援	欠席	長期欠席
実施人数	140人	43人	61人	51人	15人	1人	2人

2回目

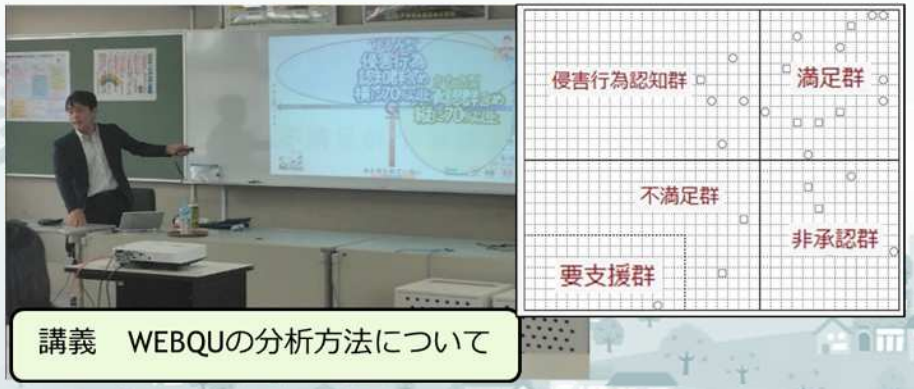
4群	満足	非承認	侵害知	不満足	要支援	欠席	長期欠席
実施人数	171人	43人	48人	38人	12人	1人	2人

満足群　１４０→１７１

不満足群　５１→３８

侵害知群　６１→４８

要支援群　１５→１２



WEBQU活用研修の様子

【〇成果と△課題】
〇学級生活満足度では、「満足群」にあたる児童数が大幅に増加した。また「不満足群」、「侵害知群」、「要支援群」にあたる児童数は減少した。WEBQUの結果分析を充実させたことで、学級経営の充実につなげることができた。
△学級の状態では「不安定群」にあたる学級がある。学級経営をチームで支援する組織体制が必要である。

モデル校における校内研修の高度化

喜沢小学校　「産官学による伴走支援」と「対話型研修」スタイルの導入

研究主題　児童とともに創る未来の学校～PBS×個別最適な学び～

伴走支援

①SWPBS×個別最適な学び×個別最適な支援
→ＲＴＩミーティング、アセスメント、訪問支援による授業観察とフィードバックを行い、教職員への個別最適な支援の助言
一般社団法人UNIVA 理事 野口晃菜氏
白梅学園非常勤講師 前川圭一郎氏
株式会社LITALICO

②個別最適な学びの充実
→教師のコーチング・ファシリテーター力の向上
アチーブメント株式会社
→先進地視察
広島県・大阪府・長野県

③全教職員による校外体験研修
→ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」への参加・LITALICO本社への視察）

④データの利活用
→データを活用した研究実践の効果検証・対話型研修へのデータ活用方法助言
戸田市教育データ利活用アンバサダー森俊郎氏

対話型研修

⑤「Kizawa研修スタイル」の構築
→長時間の集合型研修から、自由度が高く、短時間・少人数での機動的な非集合型の新しい研修システム（ジャストインタイム型）の構築及び職員室後方の環境整備

⑥「コラボレーションルーム」の整備
→タッチパネル式ディスプレイや可動式の机・椅子、大型ホワイトボード等を導入し、流動的な対話を可能にする研修ルーム整備

⑦対話型の研修
→SWPBS・個別最適な学び・PBL等の研修や実践の成果をデータで可視化し、対話的・協働的に効果検証を行い、改善サイクルを回していく研修会の実施
→経験年数等の関係なく対話をしやすくするために、「みんなの学校」を視聴し対話をする研修会を実施



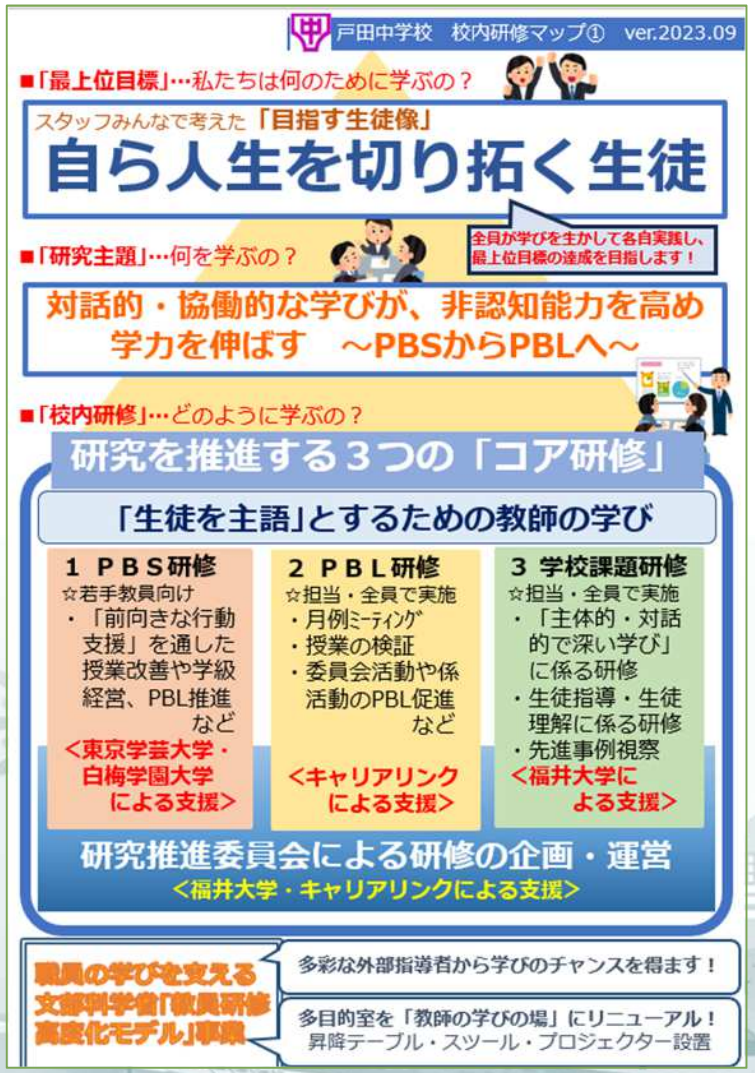


モデル校における校内研修の高度化

戸田中学校

３つのアプローチによる同一歩調の研修の見直し

研究主題　**対話的・協働的な学びが、非認知能力を高め、学力を伸ばす～PBSからPBLへ～**



（１）PBS研修

①普段の授業や学級経営の様子を参観・観察する
（撮影した授業動画の視聴or授業参観）
②観察した内容をもとに、指導者とともに対話する
③指導内容をもとに、さらに実践を重ねる

（２）PBL研修

①学年で指導者に研修やMTGを依頼して、指導者と対話
②学年内で協議→実践→指導者に報告→振り返りのサイクル



（３）教科横断チーム研修

①「主体的・対話的で深い学びを促すための授業改善」をテーマに教科横断チームを編成し、福井大学の支援による研修
〇理・数・技チーム
〇国・英チーム
〇社・家・特チーム
〇音・体・美チーム

②先進校視察し、チームへ事例を共有

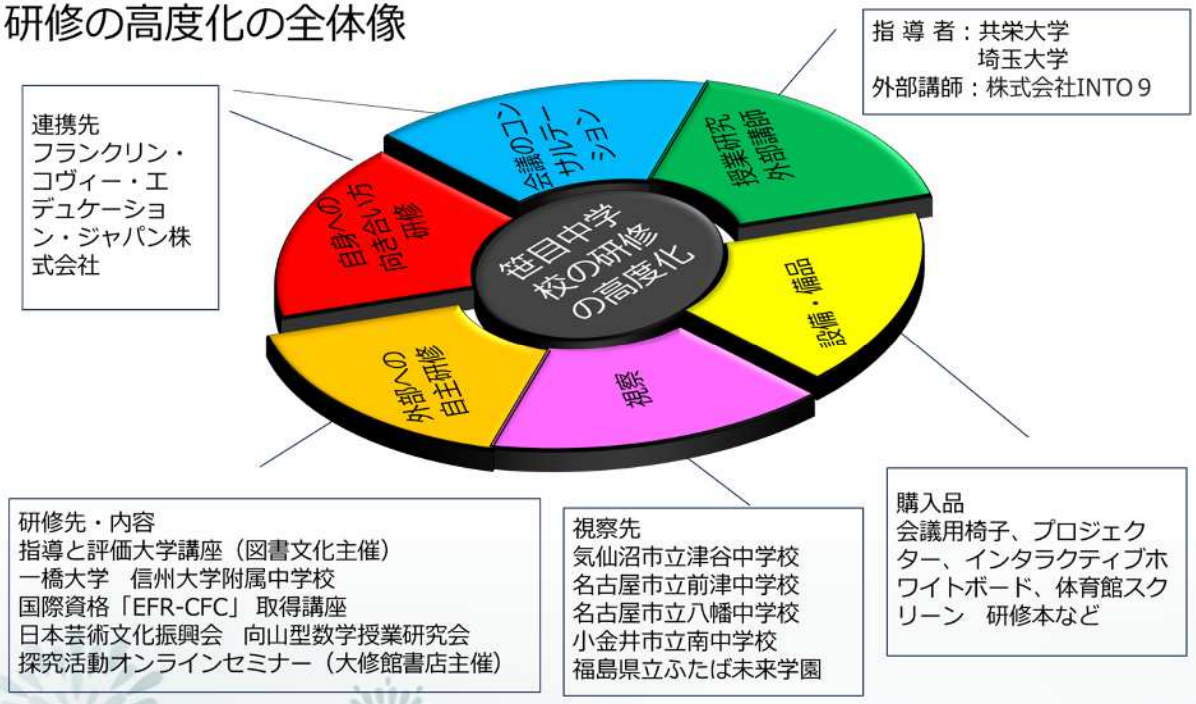


モデル校における校内研修の高度化

笹目中学校 教師のマインドセットづくりに向けた研修推進コンサルの導入

研究主題 **個別最適な学びと協働的な学びの視点を取り入れた授業実践**

研修の高度化の全体像







【７つの習慣の概要】

①主体的であること
②終わりを思い描く
③最優先事項を優先する
④Win-Winを考える
⑤まず理解に徹し、そして理解される
⑥シナジーを作り出す
⑦刃を研ぐ。

研究推進委員会

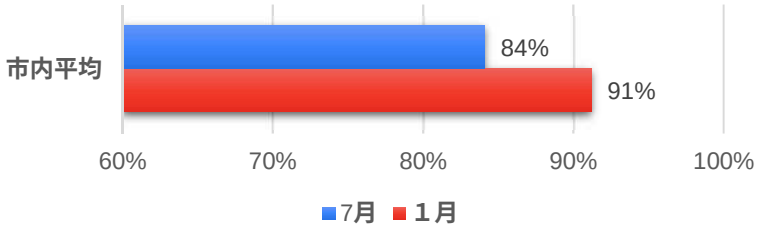
コンサル（フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパン）による会議運営についての客観的な対するフィードバックを通して、目的設定から参加者の事前準備等の見直しを行い、会議の効率化と効果の最大化に向けた改善に取り組んだ。

校内研修

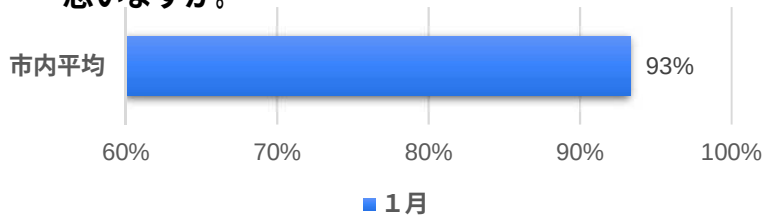
７つの習慣の講義とともに、それらを基に教育活動への取組等を見直すグループワークを通して理解を深める。（例　⑤を基にカウンセリングの在り方を見直すなど）

成果と課題　教師の個別最適な学びについて

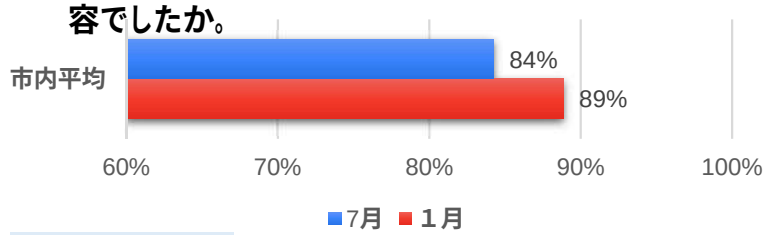
ア）研修の内容について、満足していますか。



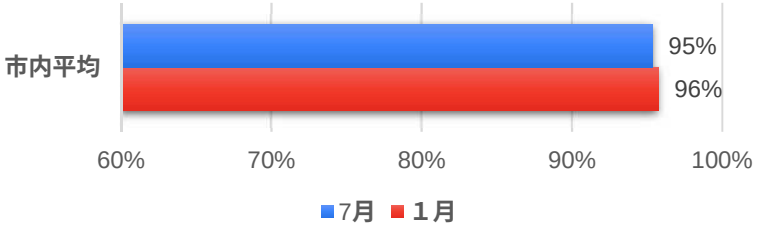
Ⅰ）研修で学んだことを生かした実践に取り組もうと思いますか。



Ⅱ）研修は、あなたの研修ニーズに合致している内容でしたか。



Ⅳ）研修を自分事として捉えて参加していますか。



考察

○記述回答では、ア（満足感）と感じる理由に、RTIなど、目の前の子供の指導・支援に直結する研修内容を扱っていること、すぐに実践に生かせること、多様な外部指導者の招聘が多く挙げられていた。また、Ⅰ（実践意欲）についても同様の理由が挙げられており、日々の実践に対する伴走支援や、それに直結する指導者との対話が効果的であったと考えられる。

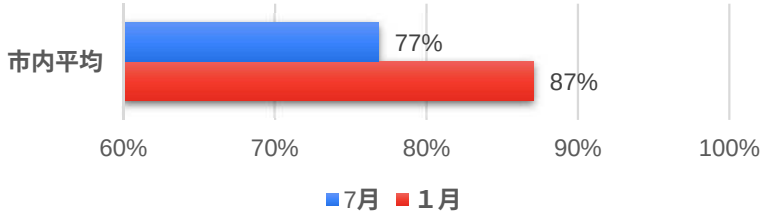
○また、多様な研修内容の実施が、自身のとニーズの発見につながったと回答する教師も多かった。このことは研修開始前は、自身の研修ニーズがそもそも何なのかを発見できていなかったということでもあり、校内研修において幅広い内容を扱うことは、ニーズを見付ける上で効果的であった。

○学んだことの実践化については、学校種で差があり、中学校における伸びは少なかった。否定的な回答をした者の理由として、「研修の意図がわからない」「校務、部活動で時間がない」などが挙げられており、働き方改革とともに研修観や研修の在り方について改善が必要である。

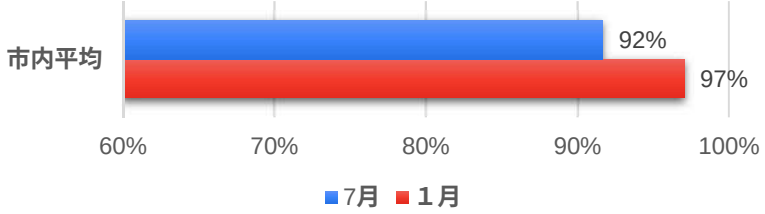
成果と課題

教師の協働的な学びについて

ⅰ）自分の意見を積極的に発信しようとしていますか。



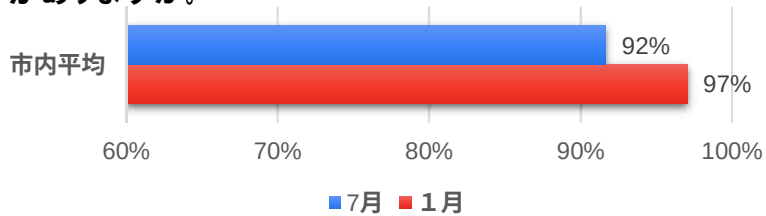
ⅱ）同僚と学ぶことで、教員としての専門性や指導力が高まっていると思いますか。



ⅲ）外部講師の支援を受けることで、専門性や指導力が高まっていると思いますか。



ⅳ）教員同士の対話を通して学びを深める場や機会がありますか。



ⅴ）誰もが意見を述べやすい雰囲気がありますか。



ⅵ）研修の（物的）環境が充実していると思いますか。



考察

○vi（物的環境整備）により、iv（協働の機会）が増え、伴ってⅰ（意見の発信）やⅱ（同僚性の実感）を感じている。同僚の話を聞くことで、ア（満足感）を感じると回答した教師も多く、**インプット中心ではなく、アウトプット中心の対話型研修は、協働的な学びにおいて効果的**であると考えられる。

○また、外部講師についてもインプットのための招聘よりも、**日々の実践に係る助言者・支援者としての招聘**が満足感や実践意欲にもつながっていることが記述回答からわかった。

成果と課題　総　括

個別最適な学び（主に市主催研修）

○効果検証の結果を見ると、すべての項目 において、概ね目標値である95%を達成している。特に、教師が自身の意思をもって参加した任意研修（教科教育研修及びセンター研究員）ではすべての項目が100%であることは、個別最適な学びを考える上で重要な示唆である。

○多様な教育課題への対応が求められる現在においても、教科等の見方・考え方を深める研修は、ニーズとして存在しており、本事業で実施したような教師の選択による研修や外部指導者による伴走指導、先進地の視察等は実施していくべきである。

○課題として明らかとなった校種によるや満足感等の差については、対象者や内容を焦点化するなどの工夫も必要であるが、運営体制にも限界があり、持続可能な実施に向けては国・県レベルでの実施や基礎自治体の共同運営などの工夫も必要である。

協働的な学び（主にモデル校校内研修）

○本事業における校内研修内容は、焦点化された内容ではなく、幅広く多様な内容を扱ったことで、効果検証では肯定的な回答が得られた。内容の深堀りができないなどの課題もあるが、学校現場の課題が多様化する中、従前の校内研修のように焦点化された内容「だけ」を追究すること自体がむしろ研修への不満につながっていたことも考察される。

○協働の機会の設定が実践意欲や満足感等とも深くかかわっていること、さらに満足感は多様な外部指導者等との連携により高まっていることが明らかになった。特に、外部指導者は一方的に「指導」をする者という立場ではなく、学校の取組に伴走して支援をしたり、助言をしたりするような関わり方が効果的であった。

○課題として、学校のニーズに応じた外部人材をいかに確保していくか、またはマッチングしていくかという点があり、この点は本事業で作成されたコンテンツをはじめとした国・県・大学等が作成するメニューにも期待したい。